

新産地報告 ヤクシマヒメアリドオシラン

『飯田市山本西山の湧水湿地群はヤクシマヒメアリドオシランの楽園』

所沢 あさ子*

飯田市山本西山の高烏屋山から梨子野山の麓の湿地群は、東海地方の湧水湿地群の一角に位置される(所沢、湿地研究 2018 年)。その湿地群や周辺に「ヤクシマヒメアリドオシラン *Kuhlhasseltia yakushimensis* (Yamam.) Ormerod」が生育する。生育地は山本西山の端から端まで阿智村境から飯田市伊賀良境までの約 300ha の範囲にある。2019 年、2020 年、2021 年に開花個体を数えた。開花個体数は 1967 個体。その他未開花個体も多数あった。

この一帯は 1990 年代にゴルフ場計画 (273ha) があった。改めて今回調査に入ると、緩い勾配に湧水湿地群があり「ヤクシマヒメアリドオシラン」の楽園となっていた。湧水湿地群の周辺には東海丘陵要素植物群のハナノキ・ミカワバイケイソウ・フモトミズナラを始め、シロバナイナモリソウ・リョウノウアザミ・ジンバイソウ・ツクバキンモンソウ・イワヘゴなどが生育し、巨木の森(所沢が呼ぶ常緑針葉樹の森。最大は直径 80cm 超えもある)の下にも瑞々しい湧水湿地群が広がっている。潰されなくて本当に良かったと思う。

伊那谷初ヤクシマヒメアリドオシランを発見

本種の分布は本州(中部地方・近畿地方)・四国・九州・屋久島・琉球、台湾・中国・フィリピン。主に暖温帯の樹林下に生育。

1995 年故井上健博士は、県内でハクウンランとされてきたものを、唇弁の形の違いからオオハクウンランとヤクシマヒメアリドオシランと分類する。

筆者が最初にヤクシマヒメアリドオシランを見付けたのは、1998 年 8 月で南木曾町富貴畑 標高 1000m。伊那谷では 2000 年 9 月で山本西平標高 770m。開花個体が 4 個体あったのが伊那谷で初めての確認であった。当地の標本は故井上健博士に確認して頂くことができた。

その後、本種に注目して調査をしたところ生育地は「常緑針葉樹の下でハナノキ湿地の様な湿った所」だということに気付いた。

確認した生育地は 大桑村(阿寺溪谷、のぞきど高原、与川) 南木曾町(柿其溪谷、岩倉、田立、男だる、富貴畑)。岐阜県中津川市(岩屋堂、花の湖、賤母) 恵那市。岩屋堂については 2000 年 7 月 24 日井上博士、バートンバーンズ(ミシガン大大学院教授)と岩屋堂のハナノキの調査中に開花個体 20 を見付け確認して頂いた。その時井上博士は「岐阜県ではまだ報告がないが。」と言われた。岐阜県ではそれから 10 年たっても本種の報告がなかったので標本を岐阜県の博物館に納めた。岐阜県恵那市については渡邉敏夫さんのご案内で確認した。

ヤクシマヒメアリドオシランの特徴

- 茎は立ち上がって葉を数枚互生し、丈は 4 から 10cm。下部は地表近くを横に這い、節から出る根は退化し突起状。
- 白い小さな花は 1cm 弱で 1 から 6 個つけ、7 月から 9 月までの間に咲く。
- 葉は常緑。葉だけでも見つかるがオオミズゴケ、スギなどの落ち葉に隠れていることが多いので、白い花が咲くと見つけやすい。
- 生育地は高木の常緑針葉樹林下の日の当たらない湿潤地。時折、大水やイノシシに掘り起こされ川に流されることもある。
- 移動しても生育できる勾配の緩い湧水湿地群がこの植物の適地となっている。

ヤクシマヒメアリドオシランは大群生していてもなかなか見つからない。

今回個体数を調査してみようと思ったのには訳がありました。私は 2018 年 11 月事故で腰椎圧迫骨折をし、リハビリのために 12 月から翌春にかけて、雪も混じる西山を登ったり下ったりしました。足元の地面を見てゆっくり歩きました。すると子供の時から何度も散歩に入った山道のことです。足元にある常緑で緑の濃い小さな葉が点々と目に入ってきました。手の親指の爪の 1/4 程の大きさ、ヤクシマヒメアリドオシランです。

* 所沢 あさ子 〒 395-0244 長野県飯田市山本 2737

この一帯は 1990 年代ゴルフ中が計画され、仲間と共に反対運動を起こした場所。小さな植物だが生育地が潰されず遺っていて本当に良かったと思うと、熱いものがこみ上げ涙が溢れてきました。ヤクシマヒメアリドオシランの実態を知りたくなりました。

調査は山本西山の開花個体数を 2019 年、2020 年、2021 年に数える。

2019 年にはそれまでに分かっていた生育地の調査を行い、2020 年 2021 年には入ったことのない西山の湧水湿地群を探し以前無いと思っていた湿地群の調査も行った。

調査結果

本種の生育する湧水湿地群は三州街道断層よりほぼ東側、山本の西山の端から端まで点在し、2019 年、2020 年、2021 年の調査では約 300ha の中で開花個体数はのべ 1967 を数える。他に未開花個体を多数確認した。なお標本番号 AS は所沢あさ子。採集に当たって本種は長野県希少野生条例指定種なので事前に許可を得た。写真 1 は採集した本種。

代表的な自生地の湧水湿地群と規模

1. 山本大明神 (約 3ha)

・2019 年開花個体 275 数える。

標本：2020 年 8 月 22 日採集 標高 820m 標本番号 AS5480

写真：2010 年 8 月 19 日撮影、ヤクシマヒメアリドオシランの遺伝子型の調査を行う佐伯いく代氏と生育地 (写真 2)。

2. 山本西平 (約 5ha)

・2019 年開花個体 502、2020 年開花個体 143、合計 645 数える。

標本：2020 年 9 月 1 日採集 標高 730m 標本番号 AS5446

2020 年 8 月 24 日採集 標高 740m 標本番号 AS5538

2020 年 8 月 24 日採集 標高 783m 標本番号 AS5479

2020 年 8 月 24 日採集 標高 803m 標本番号 AS5477

2020 年 8 月 20 日採集 標高 820 m 標本番号 AS5476

2020 年 8 月 24 日採集 標高 851 m 標本番号 AS5478

写真：2019 年 9 月 22 日 (写真 3、4)、2020 年 8 月 7 日 (写真 5) 撮影。

1. と 2. の生育地は点在する湧水湿地群とその下流域にあった。植林したスギやヒノキ林中、小川に沿って、山道や山裾のわずかな窪地でも見付けることができた。生育地の湿地群は比較的緩い勾配の丘陵で広い範囲にある。

3. 山本北平

・2020 年 8 月 15 日開花個体 402 数える。

標本：2020 年 8 月 15 日採集 標高 733m 標本番号 AS5481

写真：湿地 2021 年 8 月 3 日 (写真 6)、2020 年 8 月 16 日 (写真 7、8)、2021 年 8 月 3 日 (写真 9) 撮影。

半径 15m 程の湧水湿地の中や周辺に、沢山の白い花があった。そこには 34 個体が塊になって花の集まり (花数約 100) となっていた。それが何か所もあり驚かされた。

4. 山本南平

・2020 年開花個体 180 数える。

標本：2020 年 8 月 26 日採集 標高 840m 標本番号 AS5472

5. 山本湯川約 0.3ha

・2021 年 8 月 4 日開花個体 465 数える。

標本：2020 年 8 月 26 日採集 標高 727m 標本番号 AS5679

狭く勾配の緩い谷底、スギ、ヒノキの植林地下で小川に沿った山道付近に生育。

山本の開花個体数合計

1. + 2. + 3. + 4. + 5.

$275 + 645 + 402 + 180 + 465 = 1967$ 個体

その他 南木曾町吾妻富貴畑

標本：2020 年 8 月 25 日採集 988m AS5475

南木曾町男埴川支流

標本：2020 年 8 月 25 日採取 775m AS5473 AS5474

写真：2020 年 8 月 25 日撮影 (写真 10)。

生育地の保全

生育地の保全のために注意点を記す。

・1998 年 8 月 13 日南木曾町富貴畑において初めて本種を発見した。その後何度かその周囲 (標高

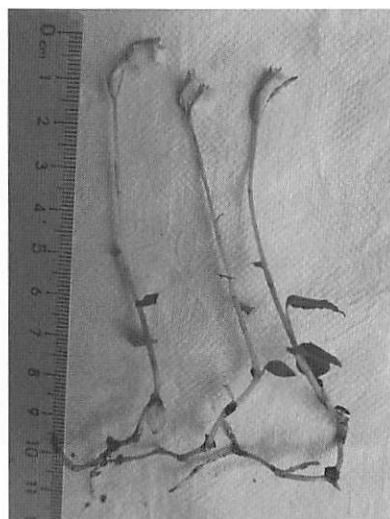


写真1 標本



写真2 大明神でヤクシマヒメアリドオシランの撮影をする
佐伯いく代氏



写真3 自生地 of 山本西平の湧水湿地群



写真4 自生地 of 山本西平の湧水湿地群



写真5 山本西平 道端



写真6 自生地 of 山本北平の湧水湿地群



写真7 山本北平のヤクシマヒメアリドオシラン



写真8 山本北平のヤクシマヒメアリドオシラン



写真9 山本北平のヤクシマヒメアリドオシラン



写真10 男埴 川べり

960m ~ 1000 m) の開花個体調査をした。約 2ha の範囲に生育を認め、2008 年まで長野県最大の自生地に思えた。2008 年 3 月 13 日まとめの開花個体調査数は、伊那谷全体で 224 個体。富貴畑で 287 個体数えた。しかし、その後まとまって生育していた休耕地も含めヒノキ、スギの植林地で植栽木の間伐が行われた。すると地面に日が差すようになった場所は生育を確認できなく倒した木の枝や葉の下で遺っていた。それも其の後、数年もたつとササが繁茂し生育が認められなくなった。

また、最初に発見した場所は、ヒノキやスギの植林地で井水の流れに沿った山道に生育していた。井水は周囲の土壌を湿らせて生育地となっている。その後水が漏れないような管に変更され、一帯は乾燥して無くなってしまった。2020 年 8 月 15 日訪れると、谷の小川沿いの湿り気の有る所で僅か確認できただけだった。

・柿其溪谷

本種は溪谷のゲートの手前からゲートから溪谷沿

いの 7km ほどの奥までの湧水湿地や、周囲の尾根の湿潤地で確認した。溪谷沿いにある「カモシカ帰り」付近の崖で、70 個体の花をつけた個体を発見した。しかし次年度には 1 個体を遺しすべて崖から下の溪谷に落ちてしまった。その後はなにも確認できなかった。普通崖にある植物は流されないように岩の間に根を張るものだが、本種は茎が横たえ根が退化し節があるだけである。イノシシ、が掘り返し、大水が出てもスギの葉などで止まることができなければ川に流れてしまう。

考察

山本西山の湧水湿地群はヤクシマヒメアリドオシランの楽園

山本西山は約 300ha の中に、比較的緩い勾配の谷地形に湧水湿地群が広がっている。本種は湿潤地の湧水湿地群を中心として生育していることが多く、湿地群の下流域の谷筋、小川沿いの山道に生育

していることもある。必ず常緑針葉樹、ヒノキ、スギ、アカマツ（木曽谷ではアスナロ）などの下に限られている。生育には一年を通し、湿り気と、日陰が必要である。

最近岐阜県などで生育地が見つかったので、今後他に生育地が見つかるかもしれない。

山本の西山の湧水湿地群は環境省「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」2016年指定され、周囲の水源地である里山は環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」2015年指定を受けている。今後この湧水湿地群が存在し、小さな植物の楽園でありたい。

謝辞

本種は長野県希少野生保護条例指定種で採集の許可をいただいた。関係する方々にお世話になりました。これまでに情報をいただきました佐伯いく代氏、楯誠治氏、柿其溪谷について案内していただいた清水岳志氏、恵那市について渡邉敏夫氏、採集の許可

をくださいました土地所有者の皆様、岐阜県の標本の保管のために働いてくださった山崎玲子氏らに心からお礼申し上げます。そして1990年代に山本の西山の広大な湧水湿地群をゴルフ場にしないで保全をしてくださった皆さまにも心から感謝を申し上げます。

参考文献

- 井上 健・池上睦美(1997) 長野県植物誌 P1484-1485
長野県植物目録編纂委員会(2017) ヤクシマヒメアリドオシラン 長野県植物目録 P39
山崎玲子(2019) 岐阜県植物誌 P168
遊川智久(2021) ラン科ヤクシマヒメアリドオシラン フィールド版日本の野生植物 1 P161. PL147
所沢あさ子(2018) 長野県伊那谷南西部ハナノキの生育する湿地の保全活動について 湿地研究 Vol.8 No.1 日本湿地学会 P121-124